

出席委員：（会長、副会長以下選出区分別五十音順）

佐々部 一会長、原田 留美副会長、

木下 順夫委員、久保田 敏彦委員、田中 和也委員、中村 路子委員、

井上 修一委員、小山 貞子委員、小形 孝文委員、松永 裕幸委員、浅井 英夫委員

欠席委員：なし

傍聴者：1名

【会長】 皆さん、こんばんは。だだいまから第10回多摩市介護保険運営協議会を開催します。議事に入る前に、前回第9回、前々回第8回の議事録の確認と決定をしていきます。議事録の修正が必要な箇所はありますか。

特に修正がないようでしたら、前回、前々回の議事録をこの内容で決定したいと思います。

それでは、議事1、「第9期多摩市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に対する答申書について」に入ります。事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 お手元に資料1をご用意ください。こちらは、会長と御相談のうえ事務局と会長とで案文を作成したものととなります。

答申書の構成は、まず1ページ目の部分で諮問に対する答申であること、素案の内容について了承する旨を記載しています。

続く2ページ目以降で基本目標ごとにそれぞれ皆様の御意見を要約する形で記載をしています。

まず、基本目標1「健幸寿命を延伸する」については、健幸寿命の大切さは理解していても、実際に市の事業に参加している方は少ないという御意見を複数の委員さんからいただきましたので、このような健康づくりに積極的でない層も含めてどのように参加を促していくかという視点で記載しています。

続いて、基本目標2「安心して暮らせるしくみを強化する」については、家族が認知症になったときの相談場所をもっと周知してほしいといった御意見、小学生、中学生などの若い世代のうちから認知症への理解を深めることが大切であるという御意見を複数の委員さんからいただきましたので、その点に重点を置いて記載をしています。

最後に、基本目標3「介護保険サービスを適切に利用できる環境を整備する」については、介護保険料の改定案や市町村特別給付の在り方について様々な御意見をいただきましたので、これらのトピックに触れる形で案を作成しています。

答申書案の説明は以上となります。

【会長】 答申書について御意見がありましたら御発言をお願いいたします。

【委員】 素案と答申書の関係はどのようになるのでしょうか。

【事務局】 この答申書は、計画内容そのものに対する意見というよりは、計画に基づいて施策を展開するに当たってはこれらの点に留意してほしいという意見になるかと思っておりますので、市としては、こういった意見を踏まえて3年間高齢者福祉施策や介護保険事業をやっていくという受け止めになるかと思っております。

【会長】 そのほか、何か御意見ございますでしょうか。

御意見、修正する場所がなければこの内容で答申書を決定したいと思います。

なお、こちらの答申書につきましては、2月上旬に運営協議会を代表いたしまして、私が多摩市長に直接お渡しするという流れとなります。よろしくお願ひいたします。

続きまして、議事2、その他に入ります。

今日が最後の会議となりますので、3年間の任期を振り返って、皆様から感想などコメントをいただけたらと思います。

【委員】 第9期に向けてこの運営協議会で色々と議論をした中で、2025年度には団塊の世代が75歳以上になるということで、多摩市の高齢化対策についてはこの第9期が重要な時期となるんだろうなという感想です。

その中で地域包括支援センターが重要な役割を担っていくことになると思うので、もっと市民にとって身近な存在になるような周知をお願ひしたいと思います。

【委員】 第9期の計画やその後のことを考えると、もう本当に高齢化は必然で、その過程で介護を担う人材の確保の難しさと、介護保険の財源の確保というのが大きな問題かなというふうに考えさせられました。

人材の確保と介護事業の健全な運営のためには介護費の増加はやむを得ないと考える一方、介護保険の財源確保に関しては、介護給付の自己負担の適正化、2割負担の所得層の拡大とか、保有資産に応じて負担を増やすとか、そういうのも必要かなというふうに考えさせられました。

一方で、健幸寿命の延長に関する施策、大変、多摩市でも充実した施策を打っていらっしゃるの、健幸寿命をできるだけ延ばして、介護負担を減らせるような形を今後も進めていただければありがたいなというふうには思います。

【委員】 今回、次期計画のことも多摩市でどのように考えているのかということも含め色々勉強になりましたし、また、自分もある程度発言ができたと思うので、とても良い経験だったと思います。ありがとうございました。

【委員】 国も多摩市も認知症に本腰で取り組んでいる様子が伺えて嬉しく思っています。

また、いつまでも住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けるというのが謳い文句になっていますが、引っ越しが多くて住み慣れた地域がない人もいますし、施設に入所する方にとって住み慣れた地域というのは何なのかなというところを個人的には考えています。

【委員】 第9期の計画、答申に関わらせていただき、非常に勉強になりました。関わることで多摩市への期待がかなり大きくなったというところがございます。

第9期の計画の議論を通じて多摩市らしさ、特に団地の高層階の方を対象にした事業や、子供たちを巻き込むような説明の機会についても知ることができましたので、さらに強化してほしいと感じます。

多摩市自体が、認知症になっても健やかに生きられて、認知症の人に優しいまちをさらに目指してほしいというふうに期待しているところです。

【委員】 私は前任からの引継ぎでこの会議に参画して1年ほどになりますので、まだまだ勉強させていただいているところです。日々の活動を通じて接する高齢者の方からは、家事支援のサービスについては1時間では何もできないという御意見をいただいております、介護予防のサービスなどについては、多くの人にとってより使いやすい制度にしていっていただければと思います。

【委員】 私も、昨年7月から多摩市の施設の施設長として赴任して、前任者からの引継ぎという形でこの協議会に関わっています。この協議会を通じて多摩市の実情について大変勉強になりました。

た。今後深刻な少子高齢化を迎えて、どこの自治体も本当に大変な時期を迎える中で、今回このようなすばらしい計画書ができたこと、大変よかったというふうに思っております。

その中で、私共の施設は特別養護老人ホーム等を経営していますが、やはりその施設は地域のための施設でありますので、今後、少しでも地域福祉の推進に協力できたらいいなということも改めて感じました。良い機会を与えていただきまして、ありがとうございました。

【委員】 私は事業者の代表ということで参加させていただきましたが、介護保険が始まって24年が経過し、介護保険も発展してきて、いろんなサービスが出来上がって、逆に今は事業者にとってはいろいろな規制もあり動きづらくなっている部分もあるのかなというところは感じています。

現在のように行政と事業者が共に介護保険制度を作っていくことを後の世代にも引き継いでいき、そのことを計画にも入れていただいて、また介護保険も始まって24年というのは、業界としては若いと思いますので、これからも発展して、市民の方に安心して生活いただけるような、そういう場所にしていただければなというふうに思います。

【委員】 今後介護給付費が増加していくなど様々な問題はありますが、やはり、地域包括支援センターについてはいろんなアンケートで認知度が低いと思うので、いかに市民に認知してもらうかは課題なのだと思います。あとは、団地や坂が多いなど多摩市特有の地域性の問題についても取り組んでいく必要があると感じます。

我々の業界でも、いかに健康格差をなくすかというのが今大きなテーマになっているので、認知症に限らず、安心して暮らせるという仕組みが重要になってくるのかなと感じます。いろんな意味でこの3年間、結構いろいろ勉強させていただいて、ありがとうございました。

【委員】 人生100年時代と言われていますが、二十数年前、私が施設の中で働いていたときには、100歳を迎える方は年に1人いるかいないかという感覚でした。それが最近では、私の勤務する施設では1年に7人いらっしゃるという状況です。

なので、今回の基本目標の健幸寿命の延伸については、本当に本格的に取り組まなきゃいけない事項だなというふうに私は考えております。

いつまでも自分が自分らしく生活するためにできることをし続けられるような支援を私たちも提供していかなくちゃいけないなというところで、基本目標1、健幸寿命の延伸についてはこの先も3年間しっかりと見詰めていきたいなというふうに思っております。

【会長】 皆さん、ありがとうございました。会長として、皆さんの活発な御意見のおかげで、いい答申書ができたと思います。

今日の皆さんの感想だけでももう一つ答申書ができるぐらい、皆さんの良いお話が聞けて本当にうれしく思います。長い間ありがとうございました。

では、これにて介護保険運営協議会を閉会といたします。皆様、大変お疲れさまでした。3年間ありがとうございました。

— 了 —